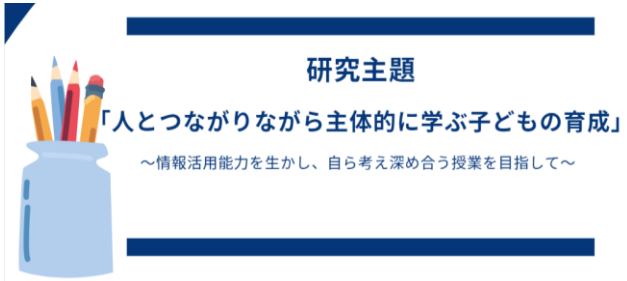
リーディングDXスクール事業 【実践事例】

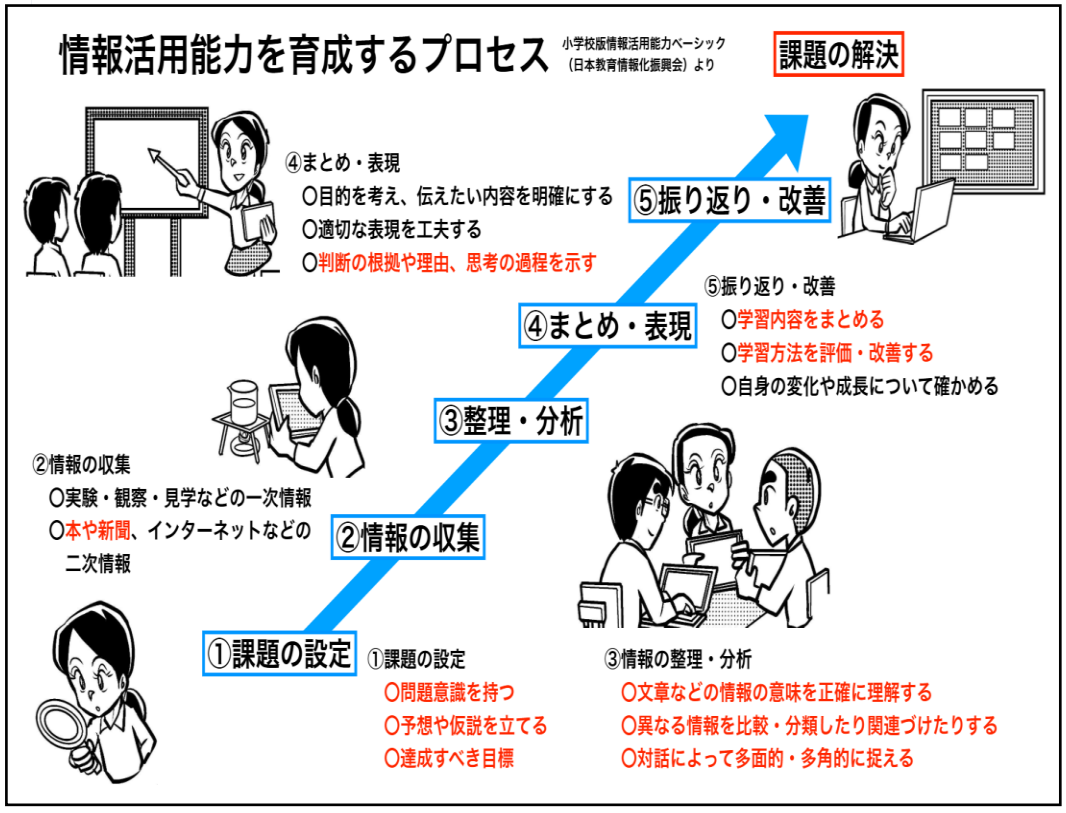
海南市立亀川小学校（和歌山県）

【取組内容】 情報活用能力の育成　 共通理解のための自校作成「情報活用能力ルーブリック」



本校の研究主題

令和４年度から本校では「**情報活用能力の発揮**」（問題解決・探究における情報活用能力）についての研究を進めてきている。本年度は、学習の基盤としてさらなる**情報活用能力を育成**し、人とつながりながら主体的に学ぶ子どもの姿を目指しさらに研究を進めている。



出展：「まんがで知るデジタルの学び」　さくら社　前田康裕

職員研修

研究主題を達成するために、4月に、「情報活用能力とは」というところから、校内研修を毎年行う。情報活用能力とは資質・能力であり、ICT機器の操作は情報活用能力を育成するためのスキルの一つであるという共通認識のもと、情報活用能力の「育成」と「発揮」を意識し、年間指導計画を見直し、指導に当たる。なお、本校のDX戦略アドバイザーである前田康裕先生の著書にある左図のような資料を使用し職員研修を行うことで職員の理解を深められている。

自校作成情報活用能力ルーブリック

自校オリジナルの「情報活用能力ルーブリック」を作成し、育成する力の明確化と共有化を図る。ルーブリックは、
A.情報収集　B.整理・分析　C.まとめ　D.表現
の4カテゴリー別で作成し、低・中・高学年・中学校の4レベルを明示ししている。これを教職員と児童が共通理解し、さらなる情報活用能力を育成を目指し、実践を進めている。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

海南市立亀川小学校（和歌山県）

【取組内容】 情報活用能力の育成　自校作成情報活用能力ルーブリック

情報活用能力ルーブリックの活用　A.情報収集　B.整理・分析　C.まとめ　D.表現

A.情報収集	S（名人級）中学校	A（上級）高学年	B（中級）中学年	C（初級）低学年
①メモをとる	・メモをとる目的がわかっている。 ・相手の言葉を取捨選択し、要約することができる。 ・主要なキーワードを挙げることができる。	・相手の言葉や掲示物等から必要な情報を抜き出して記述できる。	・相手の言葉や、けい示物をそのまま書きうすことができる。	・とき、ところ、だいじなことなどの　まほんできないじょうほうをきろくできる。
②写真・動画を撮る	・情報モラルを理解した上で撮影することができる。 ・撮影の目的・条件設定をして撮影することができる。 ・撮影した写真や動画を確認・管理し、写真を使った活動につなげることができる。	・撮影する写真や動画の用途を意識し、肖像権や撮影禁止場所等に配慮しながら撮影できる。 ・対象物との距離、アングル、明るさ等を意識して撮影できる。 ・撮った写真や動画を保存・共有できる。	・とりたいものがよく見えるようにくろういした方を工夫できる。 ・相手の気持ちやきうい禁止場所かなどを考えてさつえいすることができる。 ・さつえいしたものを保存することができる。	・とっていいか、つかっていいかおいてに聞いてから、しゃしんやどうがをとることができる。
③インターネットで調べる	・引用するサイトの目的や信頼性を見極めることができる。 ・他のサイトの情報と比較して自己の判断で選ぶことができる。	・引用するサイトの出所先を意識し、その信頼性を見極め、出典を明記して必要な情報を選ぶことができる。	・言声・フリック・タイピング入力などでキーワードをいれることができる。 ・検索く結果から出典を明らかにすることができる。 ・必要な情報を選ぶことができる。	・ブラウザをきどうして、しらべたい　じょうほうのキーワードを　言声やフリックで入力できる。
④図書・資料をさがす	・求めている情報を探すことに加えて、図書室にどのような書籍・事典・資料をそろえるべきかを提案することができる。 日本十進分類法（NDC）の図書分類や表示を参考にホや資料を探すことができる。	・自分に必要な図書や資料を効率的に探し、課題解決につなげることができる。	・図書室や図書館で、自分に必要な本や資料を探すことができる。	・よういされている　本の中から、じぶんに　ひつような本を　えらぶことができる。
⑤アンケートを行う	・集計結果のまとめ方・表現方法も考慮して実施することができる。 ※アンケートの目的を説明したり、お礼を伝えることができる。	・回答者に配慮し、迷わずわかりやすく回答できるアンケートを考えることができる。 ・後々の集計を考慮して、アンケートを作成することができる。	・答える人の立場に立って、迷わずわかりやすく回答できるアンケートを作成できる。	・あいてに聞きたい　しつもんをきめ、聞くことができる。
⑥インタビューを行う	・インタビューの時間を意識することができる。 ・質問への回答を受けて、その場でさらなる質問や質問の変更ができる。 ・あいづちや聞く姿勢にも気をつけることができる。 ※あいさつやお礼を伝えることができる。	・質問の回答からさらに深掘りすべきポイントがわかり問い返すことができる。 ・話の流れで質問の順番を変えて問いかけることができる。	・質問の答えを聞いて、さらに聞きたくなったことを、その場で問い返すことができる。	・たずねたいことを　あいてに聞くことができる。

B.整理・分析	S（名人級）中学校	A（上級）高学年	B（中級）中学年	C（初級）低学年
①図を使って思考する	・自分が決めた思考スキルに適した図、表、グラフ、年表、思考ツールを決め、情報をまとめることができる。	・指示された図、表、グラフ、年表、思考ツールの視点を自分なりに考えて、情報をまとめることができる。	・集めた情報を指示された図、表、グラフ、年表、思考ツールにまとめることができる。	・あつめた　じょうほうを、しじされた　ず　やひょう　などに　まとめることが　できる。
②構成する	・対象に応じて構成や手法を自分が選ぶことができる。 ・伝えたいことを相手が理解しやすく構成することができる。	・「初め・中・終わり」「起承転結」「概要から詳細」等、伝えたいことを適した順序を選んで組み立てることができる。	・「初め・中・終わり」等、伝えたいことを組み立てることができる。	・あいてにつたえたいことをはじめに、つぎに、おわりなどのことばをつかってじゅんじょだてでこうせいすることができる。
③検証する（情報の信頼性）	・発信者・URL・日時・広告の有無等から情報の信頼の程度について説明できる。	・発信者・URL・日時・広告の有無等から情報の信憑性について判断することができる。	・発信した人・サイトのURL・日時・広告の有無等を確認できる。	・どこからにゅうしゅしたじょうほうかがわかる。
④データの整頓	・ディレクトリの構造を理解して、保存・読み込みができる。	・Word、Excle、PowerPoint などのファイルを保存先を理解している。	・ファイル、ノート、カードなどを内容ごとに仲間分けして名前をつけて整とんすることができる。	・ファイル、ノート、カードなどをしじされたとおりに　せいとんすることができる。

思考スキル：ベン図 比較する／Y / X / W チャート 多面的に見る・分類する／バタフライチャート 多面的に見る／クラゲチャート 理由付ける／ピラミッドチャート（上から下） 具体化する・構造化する／ピラミッドチャート（下から上） 焦点化する・抽象化する・構造化する／ウェビング（イメージマップ） 広げる／フィッシュボーン 多面的に見る・見通す／キャンディ・チャート 見通す／KWL 見通す／データチャート 比較する・明らかにする／座標軸 順序付ける・比較する／PMI 多面的に見る／同心円チャート 変化をとらえる／プロット図 変化する／くま手チャート 多面的に見る／情報分析チャート 構造化する・見通す／ダイアモンドランキング 比較する・順序付ける

C.まとめ	S（名人級）中学校	A（上級）高学年	B（中級）中学年	C（初級）低学年
①新聞形式（リーフレット等を含む）	・主張が読み手に伝わるよう、定められた分量で記事の優先順位や割り付け、見出しをつけることができる。 ・絵や写真、表やグラフなどを用いてリード文の配置のバランスを考えることができる。	・絵や写真、表やグラフなどを用いてリード文をつけて作成できる。 ・本文は見出しをつけ、アウトライン構成をして定められた分量で割り付けすることができる。	・絵や写真などを用いて作成し、見出しをつけて記事にすることができる。 ・活動を振り返り、主張点を明確にすることができる。	・えやしゃしんなどをもちいてさくせいし、かつどうをふりかえり、じぶんのかんがえを文しょうかすることができる。
②報告文形式	・読み手の状況を意識し、主張が伝わるように、複雑にならないよう、資料等を精選し、表現することができる。	・定められた分量で主張を明確にし、資料のレイアウトを考え、貼り付けることができる。	・文字の大きさ・文字種・ルビ、改行、削除・挿入等ができる。 ・段落をつけて、伝えたい文章を入力することができる。	・だんらくをつけて、つたえたい文しょうを入力することができる。
③ポスター形式	・相手意識を大切にし、最も伝えたい言葉や画像を精選し、全体の配置のバランスを考えて表現することができる。	・主張点を明確にするために調査した内容や自分の思いに合った絵や画像を選ぶことができる。 ・見出しやタイトル、説明の文章、グラフ・表、文字の大きさ、色使いなどレイアウトを考えて表現することができる。	・相手に伝えたい内容と絵や画像を選ぶことができる。 ・見出しやタイトル、説明の文章、グラフ・表、文字の大きさ、色使いなどレイアウトを考えることができる。	・あいてにつたえたいないようとえやしゃしん、みだしやタイトルをえらぶことができる。 ・ポスターのレイアウトを考えることができる。
④スライド形式	・サウンド・映像等を貼り付けたり、ハイパーリンクを利用したスライドを作成できる。	・スライドの文字数、画像の枚数、見やすさを考え、意図した箇所に配置したスライドを作成できる。	・スライドレイアウトを選択し、文字・画像・図形・表・グラフ等を配置したスライドを作成できる。	・もじやがぞうをはりつけたかんたんなスライドをつくることができる。

※低学年はフリック入力や音声入力、中学年以上はローマ字入力で文章を入力する。

D.表現のスキル	S（名人級）中学校	A（上級）高学年	B（中級）中学年	C（初級）低学年
①報告する	・定められた条件（時間・方法等）を意識し、相手の状況を判断して質問を予想しながら適切な手段を選んで報告できる。	・伝える相手を意識して、相手の反応を見ながら報告できる。	・相手の方を見て、報告するべきことを簡潔に伝えることができる。	・かいできたことをよみ上げることができる。
②プレゼンテーション ポスターセッション	・視聴者の視線・表情・しぐさ等に反応しながら、発表することができる。	・身ぶり手ぶりを入れて、視聴者の反応を見ながら発表することができる。	・目線を合わせて、気持ちをこめて伝えることができる。	・スライドやポスターにかかれたことをよみ上げながらはっぴょうすることができる。
③グループ ディスカッション	・グループの同意形成を図りながら、最終的な結論や納得解を見出すことができる。	・自分や他者の意見を取り入れながら、最終的なよりよい結論へつなげることができる。	・他者の意見を受けて、自分の意見を言うことができる。 ・最終的な自分の考えを深めることができる。	・かだい（テーマ）にそってじぶんのいけんをいうことができる。 ・さいごにじぶんのいけんをきめることができる。
④SNS等での発信	・SNSの他者の書きこみについて不適切なものがあれば指摘して正すことができる。	・個人情報の扱い等情報セキュリティに気をつけてSNSに書きこむことができる。	・言葉遣いや内容など情報モラルに気をつけてSNSに書きこむことができる。	・じぶんのかんがえをSNSにかきこむことができる。
⑤動画を作成する	・伝えたいことを効果的に伝えるために加工した動画を発表に取り入れて表現・発信することができる。	・動画を撮り、動画編集ソフトでテロップやカット、エフェクトなどの加工をして発表に使うことができる。	・画面のアングルや明るさ、音量などに気をつけて撮影することができる。 ・動画をスライドに貼り付けて発表することができる。	・どうがをとったものをつかってはっぴょうすることができる。

○各教室内に掲示
児童にとっての指標であると同時に、教師にとっても育成すべき情報活用能力の共通認識にもつながる。

○児童に個人配付
○達成している項目にシールを貼る
ルーブリックの達成している項目にシールを貼ることで、自分の位置、次に目指すところがよくわかる。

○低学年用ルーブリック
低学年の児童が活用しやすいよう「初級・中級」のみのルーブリックを作成した。